

国労東北自動車支部

第68回支部委員会

仙台市

職場の改善、組織の強化・拡大を確認

7月19日(火)仙台地本会議室において、第68回東北自動車支部委員会が開催されました。

職場の問題点やこれまでの組織強化・拡大の取り組みなど具体的問題掘り起し、どのように解決していくか真剣に議論し、あらためて頑張る決意を固めました。

恒例により新田副委員長の司会、議事進行で始まり執行部を代表して北山委員長が「共謀罪の成立やバスを取り巻く状況など困難な時があるが、一歩でも前に出る議論をしながら展望を切り開いていこう」と挨拶。続いて来賓の原子地本書記長より「国会において数々の横暴で共謀罪が成立したが、その誇りが都議選での自民党大敗となった。その流れを国政選挙に。来年4月よりエルダールの業務範囲が拡大されようとしているが不透明な部分がある。ハーフ制度はなくなるがエルダール行路の問題などある。組織拡大について自動車の皆さんは少ない環境の中、大変と思うが自分たちの職場の中で運動

をつくる。要求をつくる姿を他労組の皆さんに見せ、一緒に職場を変えよう」と訴えました。その後、エルダール社員から契約社員に移行した場合の扱いや来年4月から変更されるエルダール制度について説明を受けました。質疑では「賃金は半分なのにエルダールダイヤを要求しても認めない」「金沢便は食事が大変だし、昼夜交互で眠れない」等出され、冬季ダイヤを取り組むこととしました。

委員会終了後、学習会として今なお避難生活が続く4月から帰還困難区域解除となった大倉(二)委員長を招き、今現在の問題点と心境について話され、今後も「フクシマ」を風化させないため共に取り組んでいくことを全体で確認し無事終了しました。

発 責
北山修司
編 責
教 宣 部
NO,122
2017.8.10

国労加入
で職場を
変えよう

第31回東日本本部定期大会
8月25日～26日・13時
東京都・田町交通ビル



「帰還困難区域解除とその後の問題点について」

浪江町は、人口2万1500人いたのが1万8000人を切っている。現在約289人、世帯数にして200世帯しか戻っていない。富岡町も200人っていない。浪江町では2店舗の新聞屋さんが赤字覚悟で営業している。

富岡町は、入院施設のある県立病院とホームセンター、食料品を扱うスーパー等充実し、双葉郡の中心・復興拠点として整いつつある。ただ浪江町はそういった部分はない。役場の敷地内に9店舗の商店はあるが、日曜日は営業していない。それも日中10時から15時まで食事を中心に営業しているのが実態です。

今、被災家屋の解体が進んでいるが、そこに住んでいたハクビシンやアライ熊が追い出され、新しい住宅に入り込んでくる。猪被害は少なくなっているが猪豚化し、90日～100日で3～4頭産み繁殖率が高く、天敵になる狐がフオククス病で

少ないため大変な状況。私たちは、9月まで医療費が免除され、県民税・町民税・健康保険も今年度は免除されている。固定資産税も今は、免除だが来年度から復活してくる。例えば宅地として利用しているところを更地にした場合、町の一等地で4・5倍という試算もある。農地も更地にした場合1・8倍～2倍になる。課税を逃れるため契約栽培とかあるが、作ったものは必ず売らなければならぬ。飼料作物を作っても販売先が見当たらない。収入がない中、後継ぎ問題も含め今後どうしていくのか。私たち自体あと5年しか農業はできないだろう。私のところの仮置き場が今年度で撤収され、除染・整地して戻されるが地震による地盤沈下、水路の陥没で全域整地するまで、あと3年かかるのではないかと。残された時間は少ない。浪江町に集まって会議するにしても、早い人で30分、遠い人で2時間半通いながらの作業と会議のため全員集まらないし中々進まない。被災地の住民は、今なお悩みを抱えながら生活しているのが現状です。